

(平成 30 年 3 月試験研究業務月報)

試験研究課題：我が国周辺漁業資源調査

研究

ズワイガニの水ガニ調査

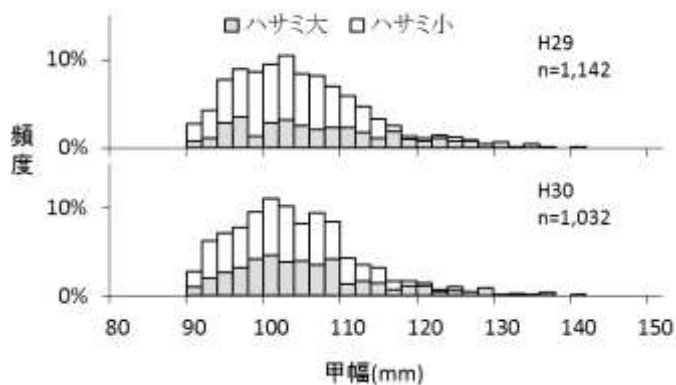
京都府の底曳網漁業では、資源管理の観点から「水ガニ」※を自主的に禁漁としています。当センターでは、ズワイガニ資源状況や禁漁効果などを調べるために、水ガニの甲羅やハサミの大きさなどを測定しています。1～3 月の調査結果では、甲幅 90～110 mm の小型個体が主体で、前年よりハサミの大きな個体の割合がやや高いことがわかりました。このことから、来漁期のオスガニ漁獲量の増加が期待されます。

また、漁業者は漁獲された水ガニを再放流していますが、その一部に標識を付けて放流しています。標識の付いたズワイガニが再捕されることで、科学的データの蓄積はもちろん、漁業者が水ガニ保護の効果も実感でき、資源管理意識の醸成に役立っています。

※ 水ガニ：9～10 月頃に脱皮をした甲羅の柔らかい雄のズワイガニ。

ハサミの小さい水ガニは、翌年も脱皮するため漁獲対象にならない。

一方、ハサミの大きい水ガニは、これ以上脱皮しない（最終脱皮）ので、来漁期には身入りの良いカニとなる。



水ガニの甲幅測定結果



標識放流後に再捕されたズワイガニ
(赤丸：円盤型の標識)